

拡がる休日出勤常態化！ 運輸所だけでなく車両所も！

新幹線の大阪第一車両所では、今年1月から6月までの半年間で休日出勤をしている社員が600名以上にのぼります。ひと月で100名以上の社員が、休日出勤していることとなります。この数は、現場社員の7割にあたります。まさに、休日出勤をしないと業務が回らない状態となっています。

会社は、休日出勤の割増率を改善したのだから、「どんどん休日出勤してもらいます」とでも言いたいのでしょうか？ もし、そうであるとすればとんでもないことです。労働者にとって、休日は極めて当たり前の権利です。「社員は、黙って会社の言うことを聞け！高い金を出すのだ！休日より業務を優先するのは当たり前だろ！」という風潮は打ち破らなくてはなりません。

このような休日出勤は、過去には発生していません。なぜ、急激に増えてきたのでしょうか？ 会社が昨年明らかにした、リニア中央新幹線実現に向け、より効率化を推進するための布石なのではないのでしょうか？

私たちは、十分な休養と有意義に余暇を過ごすことによって、はじめて「良い仕事」が出来、安全確保が可能になると考えます。したがって、休日出勤に反対します。会社は、直ちに休日出勤を解消せよ！十分な休養の確保による安全確立を最優先とせよ！

大1両で半年間に600名以上！
適正要員を確保せよ！